

## ○第1A・B分科会 「教育課程に関する課題」

上都賀地区、那須地区とも実践を通じた研究であり、参考になることが多かった。上都賀地区の発表では、信頼される学校づくりのためには、学校評価の中で評価内容をどのように設定していくとよいのか、また、ICTを活用して実施することで業務改善につながるなど、教頭としての役割を再確認することができた。これらの評価を学校運営に生かすことで、より地域と学校の連携が円滑になり、信頼が深まると感じた。



那須地区の那須塩原市では、中学校区ごとに地域学校協働本部が立ち上がっている。中学校区で情報を共有し「小中の連続性を図る教育課程」を意識することはとても大切なことである。市内それぞれの中学校区の実践事例をもとに、教頭の役割が明確に示されていた。「縦のつながり」「横のつながり」を意識しながら、地域との連携を深め、特色ある学校づくりに努めていきたいと感じた。

## ○第1・3（3）分科会 「教育目標・教育理念に関する課題」

第1分科会では、南那須地区教頭会が『協働する教職員集団を目指して－教育目標の具現化に向けた教頭の関与の在り方－』というテーマで、三年間に渡り実践を通して研究した提言を、那珂川町立小川中学校教頭の田島照明先生が発表された。

提言の主題を設定するに当たって、学校においては、教職員の年齢構成のアンバランス、経験や知見の伝承が困難、ミドルリーダーの育成等の課題があると捉え、教育目標の具現化に向け、協働できる教職員集団を組織することを目指したいと考え、主題を設定していた。

研究の概要は、①学校教育目標に即した各教育計画の作成、②学校教育目標の学年・学級経営への浸透を図る取り組み、③学校評価を生かした教育目標へのアプローチ、④働き方改革の実践、⑤「学教評価プラン」の作成、⑥ICT機器を活用した業務負担の軽減の六点について、各校の教頭の関わり方を紹介するものだった。



## ○2A・2B分科会 「子供の発達に関する課題」

本分科会では、児童生徒一人一人に適切な対応と支援のために、教頭として教職員にどう関わっていくかについて発表があった。

その内容は抜粋すると、「教頭としての職員への4関与」、支援体制の整備の工夫では、校内情報交換会議の重要性もさることながら、日頃の職員間のコミュニケーションを軸とした情報交換がより大切であると感じた。加えて教頭間の協働の必要性も再認識した。

また、足利が長年取り組んできた同和教育を核に据えた人権教育についてコメントもあった。本市が児童生徒の学ぶ意欲を支え、励まし、良さや可能性を引き出すための三つの



の基本的な実践視点の一つとして重要視している「個への着眼」の大切さについて改めて確認した分科会でもあった。指導助言者の増山校長先生からは、今後、個に応じた支援、職員の多忙感や困り感を柔らげるとして期待されているSSWの活用や、その存り方、学校としての役割を明確に助言いただきとても参考となった。

・第3(1) 「施設・設備及び事務に関する課題」 ・第3(2) 「教育行財政に関する課題」

第3(1)・(2)分科会では、2つの発表が行われた。1つ目は、芳賀郡市小中学校教頭会による「安全・安心な学校づくりのための教育環境整備」。①学校の危機管理における教頭の果たす役割を可視化するための「関与表」の作成、②危機管理マニュアルの再構築、③危機管理における教頭の役割の再考の3つの柱で研究を進めていた。2つ目は、下都賀地区Aブロック中学校教頭会による「学校・地域・教育行政と連携した魅力ある学校づくりの推進」。学校運営協議会を機能させることで、地域にいるボランティアを依頼したり、教育行政との連携を図ったりと、地域学校共同活動を推進していた。その中



で、教頭としてどのように関わっていくかについて研究を進め、どちらの発表も、現代的な諸課題に対応する育てたい資質・能力を明らかにしながら、教頭として取り組める事柄を提案していた。自分自身の実践に、少しでも取り入れていきたいと思った。

・第3(1) 「施設・設備及び事務に関する課題」 ・第3(2) 「教育行財政に関する課題」

第3(1)分科会では、「安全・安心な学校づくりのための教育環境整備」－学校の危機管理における教頭の果たす役割－というテーマで、真岡市立真岡東中学校教頭の小峰裕一先生から提言がなされた。

危機管理体制の確立における教頭の関わり方を関与表を作成して可視化することで、チェック機能の効果を上げ、PDCAサイクルによる見直し、改善を図るという内容で、多くの事例をもとにした発表であった。

参加された先生方は、発表の内容を自分の職務と比較して内省したり、自校に活用できないか考えたりしながら、3か年の継続研究の成果を真剣な表情で聞いていた。



・第3(1) 「施設・設備及び事務に関する課題」 ・第3(2) 「教育行財政に関する課題」

研究主題として「学校・地域・教育行政を連携した魅力ある学校づくりの推進」を掲げ、学校運営協議会組織を軸とし地域の特性を生かした協働活動の推進を目指した。研究主題に迫るため、学校運営協議会の活動実態や現状の課題を確認した上で、そこへの教頭としての関わり方を検証した。また、教育環境整備を進めるために、教育行政への働きかけ方を模索した。その結果、学校運営協議会で地域ボランティアを募集したり、地域コーディネーターを通して講師依頼をしたりすることにより、多くの地域教育資源を開発することができた。また、教頭は主に連絡調整を行うことに専念できたため、業務の負担軽減につながった。さらに、学校運営協議会を通して、学校や地域の問題や課題を教育行政に要望として伝えることにより、早期対応につながった。との報告があった。助言者からは、学校運営協議会を有効に活用していることは評価されること、学校をよくすることに地域の方々が当事者として考え、関わったことは大変意義のあることであるとの言葉をいただいた。

## 第5 A・5 B分科会 「教職員の専門性に関する課題」

本分科会では、近年の教職員の大量退職や採用及び学校課題が複雑化、多様化する中で、教職員の指導力向上や働き方が喫緊の課題であり、魅力ある学校づくりに向けた教職員の専門性を高めるための教頭の在り方について、3年間の継続研究の成果と課題について共有できた。まず、学習指導や児童指導の充実を図るための各種校内外研修の環境整備や連絡、調整等の支援により、共に学び合う姿勢を共有するなど教職員の意識向上が見られた。また、他校や地域との連携を図ることで、学校と地域との協働体制が充実し、地域とともに歩む学校づくりの推進につながっている。さらに、働き方改革推進のために、業務改善の中心として実態調査や意見を吸い上げる機会をつくり、ベテランと中堅、若手が積極的に学校運営に参画する職場の雰囲気づくりに繋がったことなど、今後に生かせる研究内容であった。さらに、学校が抱える課題解決に向けて、主体的・継続的・協働的に取り組む組織づくりや教職員の同僚生と資質・能力の向上が図れるよう、教頭としての意図的な関わりが必要であると改めて感じた。



## 第5 A・5 B分科会 「教職員の専門性に関する課題」

新型コロナウイルス感染症対策を徹底させ、無事に研究大会（分科会）が開催された。各市町小中教頭研修会で各学校の取組成果や課題を見直し「教頭としてのかかわり」の部分に焦点を当て、3年次計画で今年が課題の最終まとめとなり、3年間の研究の成果を拝聴することができた。

各学校での特色ある取組が紹介され、教職員、児童生徒にとって魅力ある学校づくり、組織的協働的な活動を目指す中で、ミドルリーダーや若手教員をどのようにすればよいか、現在の学校の喫緊の課題への取組が多く、参考となる事例が多々あった。いずれの取組も学校だけでは成り立たず、市町教育委員会や地域の人材活用（ボランティア団体）の協力がなければ、実施することは難しいと感じた。

提言者は、パワーポイントを活用して、参集者に分かりやすい説明であった。発表までには原稿の構成や資料づくり、リハーサルなど負担も多かったのではないかと思う。



また、助言者の校長先生は、過去3年間の研究紀要を一読され、研究の変容の様子まで捉えられていて、的確な御助言で大変ありがたかった。

今後も今回の発表を参考に魅力ある学校づくりが推進できるように努めたい。